

仙人通信 141 熊倉山(1426 m)

熊倉山は秩父湖と武甲山の間に位置する山で、秩父 33 札所の 30 番目の法雲寺の先に聳える山である。秩父鉄道の白久駅の横から日野駅を結ぶ林道を 3 km 程進み、城山への登り口(峠)の広場(海拔約 550 m)に車を置いて、小幡尾根を辿る最短コースのピストンを計画した。熊倉山への登山コースは、3 コースあるも崩落で白久に近いコースが利用できず、この城山コースとした。キツネアザミや白いウツギの咲く広場の先に、城山(熊倉城跡)を示す道標を見つけ登山口である事を確認し、片隅に車を置きスタートである。

林道が U 字状に取り巻く登山口は、小さな紫のヤマアジサイと白いザリコミが咲くも、熊に注意の看板に気が締まる。登山口の尾根は、若い檜の林で、両側眼下は林道である。木々の緑の梢が生い茂るも、両神山から東の峰々が覗く。やがて 13 番の山頂を示す道標である。『車で出かける山歩き』によれば、熊倉山の山頂を 1 番に要所・要所に、この標識が設置されているとある。やがてコースは、植林された急傾斜の檜林を九十九折状に高度を上る。林床では、黄色いニガナ・白い花を付けた元気なフタリシズカ、そして白い 3 片の花弁のコガクウツギや小さな白い花びらのカナウツギも元気をくれる。8 番の道標までこの様な状態が続く 60 分である。コースは尾根となり、南側が太い檜林・北側は落葉樹(サクラ・ミズナラ・ブナ・リョウブ等)で覆われ、見通しが利かないものの、登山路は明るい。コースの勾配はきつく、木の根と岩を頼りに進む。突然モリアオガエルの大合唱が、そしてハルゼミも加わり、静かのはずの山旅が一変だ。登りの角度がきつい事もあり、頂きと思いきその地点に到着すると更に上に山路が見える状態である。8 番から 6 番の道標までは、15 分と短い。尾根は狭い岩尾根となり、ロープを頼りのアップダウンだ。岩は節理のある石灰岩が主体の川乗層だそうで、奥多摩の川乗山と同じ地層であり、先に登った蕎麦粒山や三つドッケが間に入った秩父帯だ。南面の崖には、オレンジ色のヤマツツジが綺麗である。尾根筋にはミツバツツジが沢山あるも、開花時期を過ぎでしまっている。落石注意の標識が目立つキツイ登りだ。5 番の標識まで 6 番から 30 分を要した。高度が上がった性かここでは、ミツバツツジが綺麗で見頃だ。遠くに 140 号線に架かる銀色の日野橋が確認されるも、薄い霧で他に望めるものはない。日野方面との分岐標識、大きな岩の前にある 2 番の標識を過ぎ、登り詰める事 2 時間 30 分で山頂である。ミツバツツジに囲まれた狭い山頂からの眺望は利かないも、石の祠・3 等三角点の標識や、カケス・コガラ等の鳴き声が、きつかった旅路を癒してくれました。休憩後、靴紐を締め直して、慎重に登ったコースを戻る 4 時間 35 分(17300 歩)の山旅となりました。

(h 28. 5. 26)

登山口



尾根の登山路



山頂

